

行動問題はなぜ起きる？



行動問題を考えることは『すべての支援の根幹』につながる

行動問題

「コミュニケーション」 「セルフコントロール」 「集団行動」



発達障害の子をサポートする
ソーシャルスキル
トレーニング
実例集

別冊・指導教材つき

★具体的な事例の
要因とトレーニング、
般化のポイントがわかる

★保育園から中学校まで使える!

監修者
暖川一恵
一般社団法人フロレンス代表理事 臨床発達心理士

山口麻由美

池田書店

子どもの「困った」行動の要因分析・カテゴリ分類 (tanaka)			
事例	要因	事例別	
		分類Ⅱ	分類Ⅰ
場面に合わせた適切なあいさつや言葉かけができない	あいさつをする習慣がない。あいさつを返さなくてはならないことを知らない	日常生活習慣	生活
	ことばの使い方がわからない	言語表出	認知
	人への関心が低く、相手に注目できていない	他者理解	心理
	想像力が乏しく、相手の表情から気持ちを読み取れない	想像性	特性
	自分に自信が持てない	自己肯定感	心理
	自信がなく、友だちと話すのが苦手	自己肯定感	心理
謝らない、ありがとうを言えない	あいさつの言葉や使い方を知らない	語彙力	認知
	ことばの使い方がわからない	言語表出	認知
	人への関心が低く、相手に注目できていない	他者理解	心理
	感情や行動を抑えられず、自分が悪いことに気づけない	衝動性	特性
	自分だけが正しいと思っている	他者理解	心理
	注意力が散漫で、集中するのが苦手	不注意	特性
人の話を聞けない	話したい欲求を抑えることができない	衝動性	特性
	内容が分からなくなると、飽きてしまう	集中力	特性
	話しかけられていることに気づかない	不注意	特性
	会話するときのルールがわかっていない	日常生活習慣	生活
おしゃべりがやめられない、一方的に話してしまう	相手の表情や反応を見ていない	不注意	特性
	おしゃべりしたい気持ちを抑えることができない	衝動性	特性
	場面に合せて行動する必要性が分かっていない	判断力	認知
	周囲の状況を見ていない	不注意	特性
発言したり、質問に応えたりするのが苦手	語彙が少ない	語彙力	認知
	質問を聞いていない	不注意	特性
	質問の意味が理解できていない	言語理解	認知
	自分の考えをまとめられない	思考力	認知
	自分に自信が持てない	自己肯定感	心理
	意見を言うのが恥ずかしい、緊張して言えない	不安緊張	心理
指名されていないのに答えてしまう	話したい衝動を抑えられない	衝動性	特性
	答えるタイミングがわからない	判断力	認知
	ルールの内容が理解できていない	言語理解	認知
	周囲の状況を見ていない	不注意	特性
	適切な状況かどうか判断することが難しい	判断力	認知
	自分の意見を行ったり、要求を伝えたりするのが苦手	言語表出	認知
集団での話し合いが難しい	自信がなく、意見を言うのが恥ずかしい	自己肯定感	心理
	会話をするときのルールがわかっていない	日常生活習慣	生活
	役割交代ができない	役割責任	社会
	感覚鈍麻があり力加減がわからない	感覚鈍麻	特性
	興奮して声が大きくなってしまふ	衝動性	特性

行動問題の整理

【行動問題から分析するカテゴリ】

心理

発達心理の課題：年齢を重ね成長する過程で変化を示す自己形成の発達課題

自己肯定感

自己理解

他者理解

不安緊張

注目

防衛機制

特性

障がい特性に起因する課題：障がいがあるがゆえに起きているもの

こだわり

衝動性

不注意

想像性

集中力

感覚鈍麻

社会性

社会化における課題：人との関係づくりを進める過程で求められる発達課題

協調性

規則尊重

役割責任

勤労奉仕

権利義務

認知

認知機能の課題：感覚で受け取った情報を理解、判断処理、統合する働き

言語理解

語彙力

言語表出

記憶

思考力

判断力

生活

基本的な生活習慣上の課題：生活を安定させるために必要な環境・自立スキル

日常生活習慣

睡眠

食事

排泄

清潔保持

危機対処

指標チェックシート

利用者氏名(

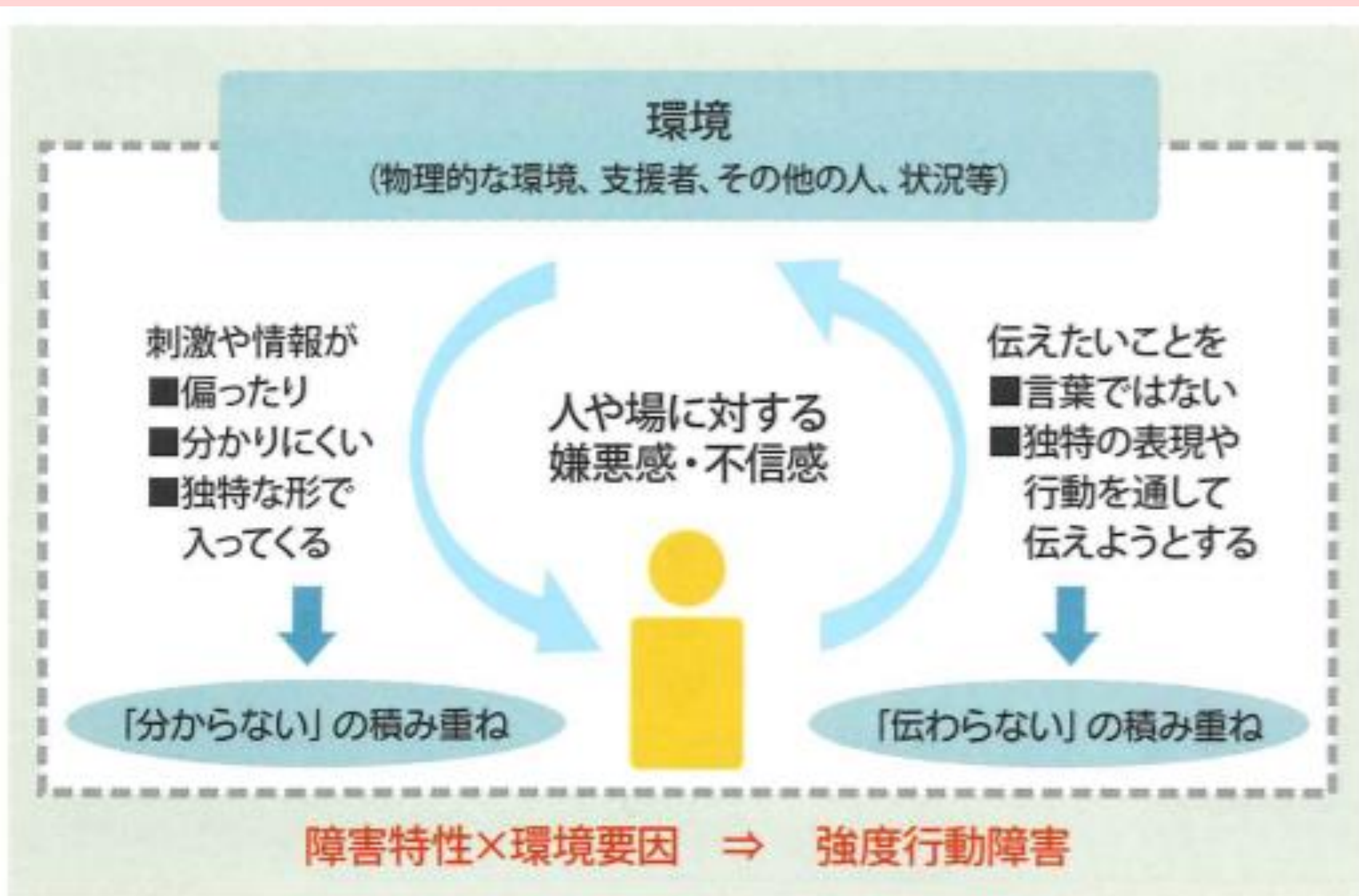
)合計/

点

※指標該当…評価の合計が13点以上である児童の数が児童全体の50%以上であること

番号	項目	0点	1点	2点	評価
1	コミュニケーション	1. 日常生活に支障がない	4. 週に1回以上の支援が必要	4. 独自の方法でコミュニケーションできる 5. コミュニケーションできない	
2	説明の理解	1. 理解できる	2. 理解できない	3. 理解できているか判断できない	
3	大声・奇声を出す	1. 支援が不要 2. 希に支援が必要 3. 月に1回以上の支援が必要	4. 週に1回以上の支援が必要	5. ほぼ毎日(週5日以上)の支援が必要	
4	異食行動	1. 支援が不要 2. 希に支援が必要 3. 月に1回以上の支援が必要	4. 週に1回以上の支援が必要	5. ほぼ毎日(週5日以上)の支援が必要	
5	多動・行動停止	1. 支援が不要 2. 希に支援が必要 3. 月に1回以上の支援が必要	4. 週に1回以上の支援が必要	5. ほぼ毎日(週5日以上)の支援が必要	
6	不安定な行動	1. 支援が不要 2. 希に支援が必要 3. 月に1回以上の支援が必要	4. 週に1回以上の支援が必要	5. ほぼ毎日(週5日以上)の支援が必要	
7	自らを傷つける行為	1. 支援が不要 2. 希に支援が必要 3. 月に1回以上の支援が必要	4. 週に1回以上の支援が必要	5. ほぼ毎日(週5日以上)の支援が必要	
8	他人を傷つける行為	1. 支援が不要 2. 希に支援が必要 3. 月に1回以上の支援が必要	4. 週に1回以上の支援が必要	5. ほぼ毎日(週5日以上)の支援が必要	
9	不適切な行為	1. 支援が不要 2. 希に支援が必要 3. 月に1回以上の支援が必要	4. 週に1回以上の支援が必要	5. ほぼ毎日(週5日以上)の支援が必要	
10	突発的な行動	1. 支援が必要 2. 希に支援が必要 3. 月に1回以上の支援が必要	4. 週に1回以上の支援が必要	5. ほぼ毎日(週5日以上)の支援が必要	
11	過食・反すう等	1. 支援が必要 2. 希に支援が必要 3. 月に1回以上の支援が必要	4. 週に1回以上の支援が必要	5. ほぼ毎日(週5日以上)の支援が必要	
12	てんかん	1. 年1回以上	2. 月に1回以上	3. 週に1回以上	
13	そううつ状態	1. 支援が必要 2. 希に支援が必要 3. 月に1回以上の支援が必要	4. 週に1回以上の支援が必要	5. ほぼ毎日(週5日以上)の支援が必要	
14	反復的行動	1. 支援が必要 2. 希に支援が必要 3. 月に1回以上の支援が必要	4. 週に1回以上の支援が必要	5. ほぼ毎日(週5日以上)の支援が必要	
15	他人面の不安緊張 集団生活への不適応	1. 支援が必要 2. 希に支援が必要 3. 月に1回以上の支援が必要	4. 週に1回以上の支援が必要	5. ほぼ毎日(週5日以上)の支援が必要	
16	読み書き	1. 支援が不要	2. 部分的な支援が必要	3. 全面的な支援が必要	

なぜ行動問題が起きるのか？

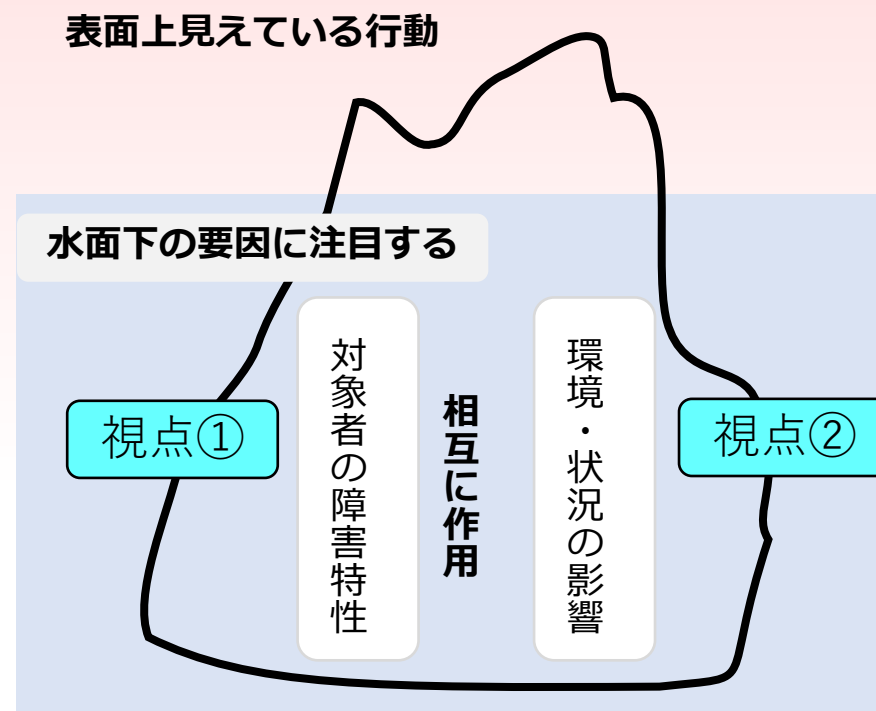


行動問題を理解する2つの視点

背景の障害特性を推測する | 冰山モデル

行動の背景にある障害特性（生物学的・心理的）を推測し、リストアップする。その際、行動の生起要因のきっかけとなっている環境（本人に影響を及ぼす物、事、人）要因にも留意する。

冰山モデルとは、障害がある人の課題となっている行動を氷山の一角として捉え、氷山の一角に注目するのではなく、その水面下の要因に着目して支援の方法を考える。



行動問題を理解する2つの視点

視点①

【障がい特性】

【障害種別】

- ・ 身体障害（視覚・肢体不自由・聴覚障がい等）
- ・ 知的障害
- ・ 精神障害（発達障害：自閉症スペクトラム
・ 注意欠如多動性障害・学習障害など）
- ・ 難病（脊髄小脳変性症） など

【成育歴】

【病歴】

【学力】

【検査結果】

【家庭環境】

【興味関心】

【得意不得意】

【エピソード】

冰山モデルを用いた支援の考え方（自閉症の子どもの例）

視点②

- おやつの時間になると、走って部屋の隅にかくれる
（直前の活動までは全く問題なく参加できる）
- 声かけするが、かたくなに動こうとせず激しく抵抗する
（他害のリスク有り）

水面下の要因に注目する

障害特性：

- ・ 先の見通しをもちにくい
- ・ 苦手な人意識が強い
- ・ 強いこだわりがある

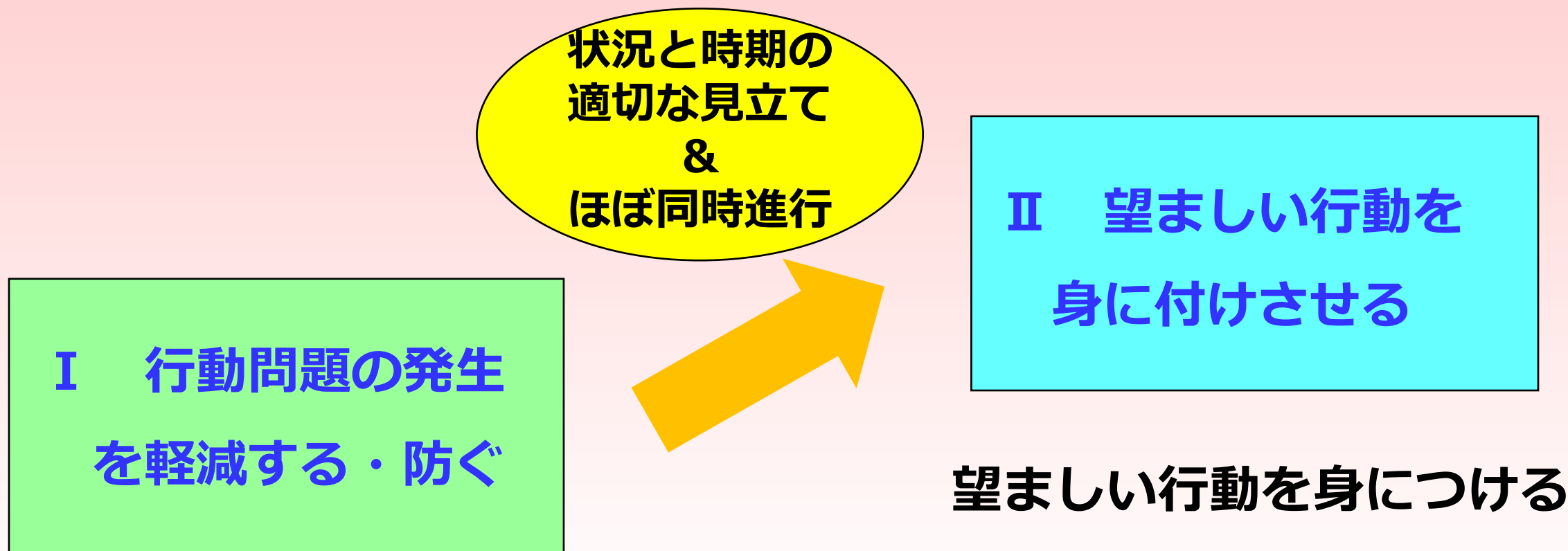
環境要因：

- ・ 今日は何のおやつか知らされていない
- ・ 手洗い場に人が並んでいる
- ・ 食べる部屋がころころ変わっている

【その他】

- ・ おやつの内容
- ・ 容器
- ・ 食べる場所
- ・ 手洗い場
- ・ おやつ後の活動
- ・ 体調
- ・ 空腹度 など

望ましい行動を身につける『2』段階の支援



望ましい行動を身につける

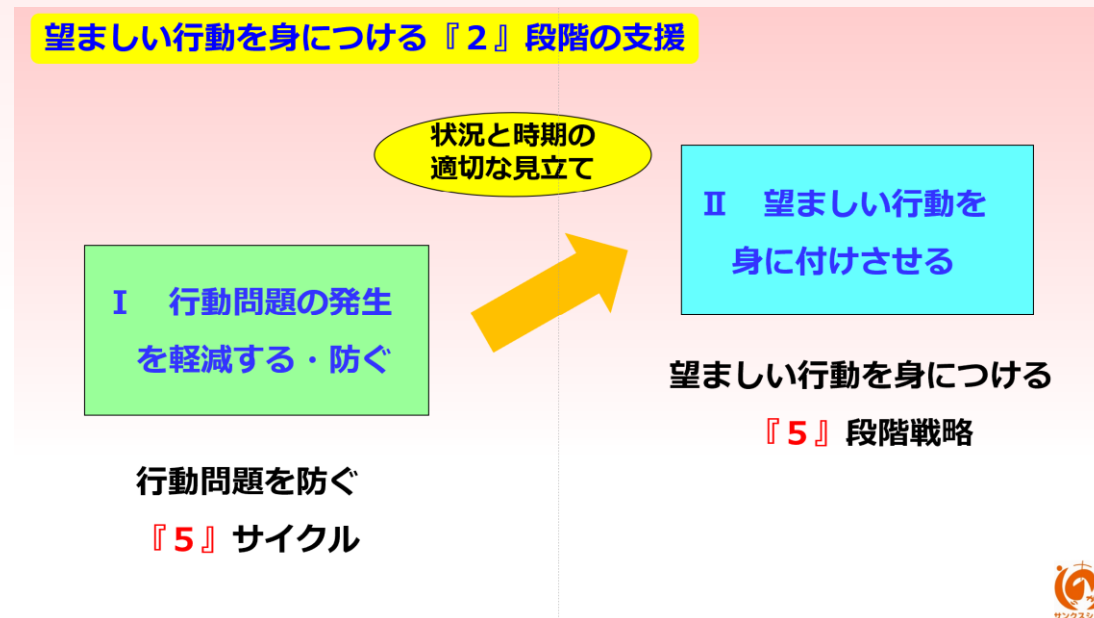
『5』段階戦略

行動問題を防ぐ

『5』サイクル

ステップ I

行動問題の発生を軽減する・防ぐ



行動問題への対応のサイクル

意識
(=評価)

- | | | | |
|----|--------------------------|--|---------------------------------------|
| 事中 | ① 起きてしまった行動問題をできる限り早く収める | <ul style="list-style-type: none">原因や要因の削除クールダウンスペースの確保 | <input type="checkbox"/> 早く収めたか？ |
| | | | |
| 事後 | ② 落ち着いたらトラブル処理をする | <ul style="list-style-type: none">謝罪や仲直り、問題である理由の説明など今後の約束を決めさせる（決める） | <input type="checkbox"/> トラブル処理したか？ |
| | | | |
| 事前 | ③ 約束に沿った対応をする | <ul style="list-style-type: none">決めた約束を決してスルーしない（すべてのスタッフ） | <input type="checkbox"/> 約束に沿って対応したか？ |
| | | | |
| 事前 | ④ 起きた問題行動を分析する | <ul style="list-style-type: none">【状況】 【きっかけ】 【生まれた結果】 を洗い出す | <input type="checkbox"/> (記録から)分析したか？ |
| | | | |
| 事前 | ⑤ 行動問題がおこらない環境設定をする | <ul style="list-style-type: none">事前の約束を徹底する | <input type="checkbox"/> 環境設定していたか？ |
| | | | |

① 起きてしまった行動問題をできる限り早く収める

- ア 安全の確保
 - ・ 本人や周囲の子どもがけがなどしないよう安全を確保する（自傷の軽減 他児の移動など）
- イ 刺激の除去
 - ・ いやになっている刺激を取り去る（視覚 聴覚 触覚 におい など）
- ウ 刺激の制御
 - ・ 現状以上の刺激を与えない（特に支援者）（クールダウンスペース クールダウン部屋）
- エ 受け入れ
 - ・ まずは気持ちのすべてを受け止める
- オ 切り替え
 - ・ 本人が興味ある話題や物を使って気持ちを切り替える
- カ 見守る
 - ・ 症状が治まるまで安全を確保して待つ

② 落ち着いたらトラブル処理をする

- ア 聞き取り
 - ・ 状況や原因等について話を聴く
- イ 不適切行動の確認
 - ・ なにがよくなかったのか？を共通確認する
 - ・ なぜよくなかったのか？を説明、説得する
- ウ 対処方法の確認
 - ・ どうすればよかったのか？を共通確認する
- エ 行動の修正
 - ・ 正しい行動のやり直し（練習を含む：**SSTの活用**）
 - ・ 謝罪や仲直り等の介入
- オ 今後の方針確認
 - ・ 今後のふるまい方の約束をする
 - ・ 今後の目標、取り組む内容や方法を確認する

③ 約束に沿った対応をする

- ア まずは
- ・ 今後の約束を決めて、その問題への対処を終える
- イ 約束のポイント
- ・ 本人が実行でき、かつ、成功しそうな約束
 - ・ 本人が意識できる（難しすぎない）約束
 - ・ 振り返りを定期的に行うこと
- ウ 発展を意識
- ・ 状況によってはバージョンアップする
→ これが、
『望ましい行動』を身につけるにつながる！

④ 起きた行動問題の分析

【その行動のもつ意味 = 4つの機能】

機能	生じる結果	なくなる結果
注目	注目が少ない状況 →行動→周囲の注目	いやな注目 →行動→消去
活動 や物	物や活動が入手できない状況 →行動→入手できる。	いやな物や活動 →行動→消去
感覚 刺激	することがない状況 →行動→感覚刺激	いやな感覚刺激 →行動→消去
逃避	いやなことが目の前にある状況 →行動→やらずにすむ	

本人にとって、行動したことにより、どんな結果が得られ、
どんな機能があるかを適切に推測するのがプロとしての専門性

④ 起きた行動問題の分析

A (状況)

店でほしいものをみつける



B (行動)

「買って～」と
大声で泣き叫ぶ



C (結果)

ほしいものが
手に入る

【3つのポイント】

レベルⅠ

『A』の状況をつくらない

レベルⅡ

『C』の結果を与えない

レベルⅢ

『B』の行動を変える

① 代わりの行動をつくる

② 望ましい行動をつくる

⑤ 行動問題が起こらない環境設定をする

「もの」 ・・・ものを使って環境そのものをコントロールする

例：壁向きに配置した机で学習する

「ひと」 ・・・いわゆる誰が対応するか 人による対応の仕方

例：重要なルールをインプットしてほしい時、管理者に話をしてもらう

「こと①」 ・・・活動内容やイベントのコントロール

例：「今日のおやつコーナー」などスケジュールボードの提示をする

「こと②」 ・・・空間・場所のコントロール

例：学習やおやつのに時間に座る席を指定する

「こと③」 ・・・時間帯や時間の長さ、順序などのコントロール

例：本人合わせた、時間入りのスケジュール表を準備する

見える

見えない

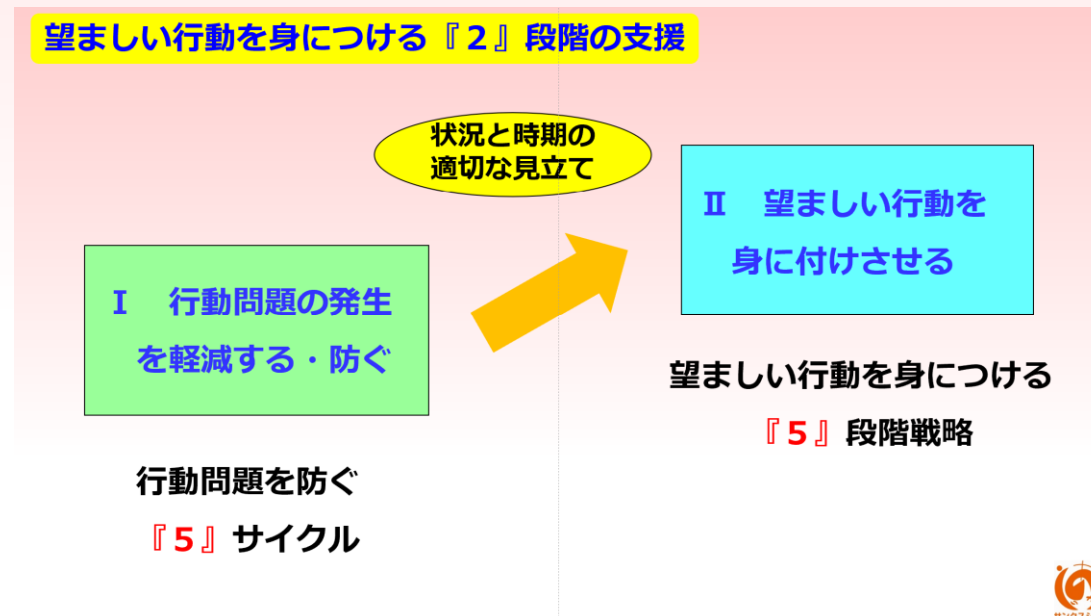
⑤ 行動問題が起こらない環境設定をする

【もの・こと・ひと】

	もの	こと	ひと
支援	<ul style="list-style-type: none"> 子どもたちに人気投票をしてアンケートした上位2つの絵本を選んで読み聞かせをした。 座るスペースに前もって座布団を並べておき、集合の声かけをした。 	<ul style="list-style-type: none"> 普段から確認している「読み聞かせのきまり」をみんなで唱和してから活動を始めた。 横同士で座ると私語をしたりふざけたりするC児とD児は、距離が離れるようあらかじめ座る場所の指定を行った。 	<ul style="list-style-type: none"> 話が終わった後に、絵本の内容についてクイズを出すことを事前にアナウンスしてから読み聞かせを始めた。 座位保持の難しいA児の横にB支援員を配置し、座り方のモデル提示をした。
結果 記録	<ul style="list-style-type: none"> 10人の参加児のうち、8人が興味をもって最後まで集中して絵本の読み聞かせに参加した。 座る場所で押し合うことなく、自分の座る場所を上手に決めることができた。 	<ul style="list-style-type: none"> 5名ほどの子どもが「決まり」の掲示物を見なくても唱和できた。 過去に時折読み聞かせのじゃまをするC児が、最後まで活動の邪魔をすることなく読み聞かせに参加できた。 	<ul style="list-style-type: none"> 登場人物の人数と名前を正解した子は7名だった。 A児は、時折座位保持が崩れたが、その都度、横にいるB支援員の姿を見て座位保持の立て直しをしていた。

ステップⅡ


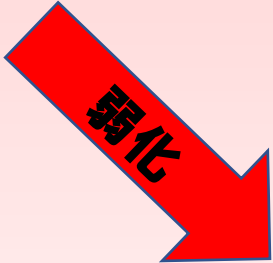


望ましい行動を身につけさせる



望ましい行動を身に付ける5段階戦略

- ① **不適切行動を『軽減』する・なくす**
 - ・ 不適切な行動の頻度を下げる（＝強化しない）
- ② **望ましい行動を新たに『獲得』させる**
 - ・ これまで持っていなかった行動を出現させ強化する
- ③ **獲得した行動を『維持』させる**
 - ・ 一度獲得した行動が弱化・消去されないよう維持する
- ④ **獲得した行動を『般化』させる**
 - ・ ある限定場面だけで行動が起きるのではなく、他の別の場面でも行動が起きるようにする
- ⑤ **獲得した行動の『自立』度を高める**
 - ・ 他者の依存ではなく自分の力で行動する部分を増やす

応用行動分析（ABA）の基礎知識

	出現	消失
好子		
嫌子		

【好子】

行動の直後に**出現**すると、その行動の将来の生起頻度を上げる、
刺激、出来事、条件

【嫌子】

行動の直後に**消失**すると、その行動の将来の生起頻度を上げる、
刺激、出来事、条件

【強化（好子出現）】

行動の直後（**60秒ルール**）に、好子が出現したり、好子が増加する、という経験をすると、その行動は将来起こりやすくなる。

応用行動分析（ABA）の基礎知識

【好子の種類】

- I 生得性好子（無条件）・・・生命維持に関する基本的欲求を充足
食べ物、飲み物、におい、味、睡眠、性的刺激 等
- II 習得性好子（条件性）・・・ごほうびであることを後の学習で身に付けた
タブレットでゲーム、お出かけ、買物、言語的賞賛 等
- III 般性好子・・・この強化子が別の強化子を得るために使用される
お金、ごほうびシール等
- IV 社会的好子・・・人とのかわりかわりが強化子として機能した場合

プリマック
の原理

好子の量は少ない方がよい（飽和・遮断）

望ましい行動を身に付ける5段階戦略

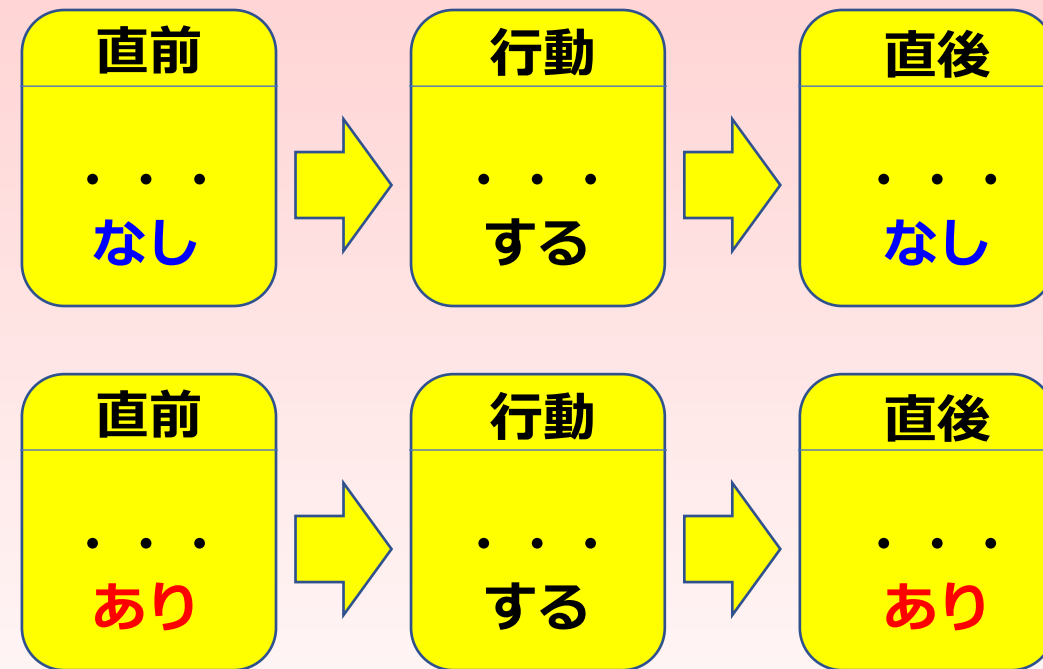
- ① 不適切行動を『**軽減**』する・なくす 「**消去**」
 - ・ 不適切な行動の頻度を下げる（＝強化しない）
- ② 望ましい行動を新たに『**獲得**』させる 「**シェイピング**」「**SST**」
 - ・ これまで持っていなかった行動を出現させ強化する
- ③ 獲得した行動を『**維持**』させる 「**強化スケジュール**」
 - ・ 一度獲得した行動が弱化・消去されないよう維持する
- ④ 獲得した行動を『**般化**』させる 「**分化強化**」
 - ・ ある限定場面だけで行動が起きるのではなく、他の別の場面でも行動が起きるようにする
- ⑤ 獲得した行動の『**自立**』度を高める 「**フェイディング**」
 - ・ 他者の依存ではなく自分の力で行動する部分を増やす

① 不適切行動を減らす「消去」

【消去される場面】

【消去】

これまで**強化されていた行動**に対して強化の関連性を中止するとその以前の状態までその行動は減少する



【バースト】

消去対応を開始した直後**一時的に**行動の頻度や強度が**爆発的に増える**こと

【復帰】

これまで弱化されていた行動に対して**弱化の関連性を中止すると**その以前の状態まで**行動は増加する**

② 行動の獲得 「シェイピング」・「SST」

【シェイピング】

目標行動に**より似ている行動**だけを
次々と強めていく対応

【目標行動】

レパートリーでない行動の1つで
目標行動と関係の深い次元上で
似ている行動

【出発点行動】

レパートリーの1つで
目標行動と関係の深い次元上で
似ている行動

好子の特定

好子固定
型

好子変動
型

② 行動の獲得 「シェイピング」・「SST」

ソーシャルスキルとして必要な力とは・・・

- ① 意思決定
- ② 問題解決能力
- ③ 創造力・豊かな思考
- ④ クリティカルに考えていく力
- ⑤ 効果的なコミュニケーションスキル
- ⑥ 対人関係スキル（自己開示、質問力、傾聴力）
- ⑦ 自己意識・自己理解
- ⑧ 共感性
- ⑨ 情動への対処
- ⑩ ストレスへの対処

WHOの定義より

② 行動の獲得 「シェイピング」・「SST」

トレーニングの流れ

教示

やり方を教える

モデリング

や実際にやって手本を見せる

リハーサル

ロールプレイやゲームなどで実践的に練習する

フィードバック

できていること・できていないことを評価する

般化

日常生活の中で取り組む

③ 行動の維持 「強化スケジュール」

【連続強化スケジュール】

行動するたびに
好子が出現したり
嫌子が消失すること

【部分強化スケジュール】

何回かに1回だけ
行動に随伴して
好子が出現したり
嫌子が消失すること

定比率

決められた回数の行動をした直後に好子が出現する

変比率

何回か行動すると（回数是一定ではない）好子が出現する

定時隔

前回の好子の出現から一定時間経過後の最初の行動の直後に好子が出現する

変時隔

前回の好子の出現からある時間（時間は一定ではない）経過後の最初の行動の直後に好子が出現する

④ 行動の汎化 「分化強化」

【分化強化】

ある**目的に合致した行動を強化し**
それ以外の行動を**消去**すること

行動のよい部分を強化し、
よくない部分を減らしていく
手法

何に注目して
どの行動を
強化するか を
明確に決めること

⑤ 行動の自立 「フェイディング」

プロンプトフェイディングの例

身体プロンプトを使用して行動を教える

モデリングを使用して行動を教える

声掛けを使用して行動を教える

プロンプトなしで行動ができる

手助けレベルを減らす

ことばかけのフェイディング

・「部屋に入ったらくつをくつばこに入れるよ」



・「部屋に入ったら最初にすることはなにか？」



・「約束を思い出してごらん」



・（声かけせずに待つ）

Disability

Learning Disability, LD

The screenshot shows the Weblio dictionary entry for the word "ability". The search bar contains "ability" and the page title is "ability". The main content area includes the definition "abilityとは 意味・読み方・使い方" and the primary meaning "主な意味 できること、能力、技量、力量、才能". There are also audio playback controls and a "単語を追加" button.

Disorder

Attention-deficit hyperactivity disorder、ADHD

The screenshot shows the Weblio dictionary entry for the word "order". The search bar contains "order" and the page title is "order". The main content area includes the definition "orderとは 意味・読み方・使い方" and the primary meaning "主な意味 順序、順、語順、整理、整頓(せいとん)、整列、(...の)状態、調子、(社会の)秩序、治安". There are also audio playback controls and a "単語を追加" button.

『新たなできる』をつくる・『今あるできる』を増やす の見極め